【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成29年3月16日(2017.3.16)

【公開番号】特開2017-31222(P2017-31222A)
【公開日】平成29年2月9日(2017.2.9)
【年通号数】公開・登録公報2017-006
【出願番号】特願2016-221108(P2016-221108)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　47/04　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/50　(2017.01)
Ａ６１Ｋ　 9/16　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/04　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　37/06　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　37/08　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　29/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　39/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　39/395　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　35/17　(2015.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　47/04
Ａ６１Ｋ　47/48
Ａ６１Ｋ　 9/16
Ａ６１Ｐ　31/00
Ａ６１Ｐ　31/04
Ａ６１Ｐ　35/00
Ａ６１Ｐ　37/06
Ａ６１Ｐ　37/08
Ａ６１Ｐ　29/00
Ａ６１Ｋ　39/00　Ａ
Ａ６１Ｋ　39/00　Ｈ
Ａ６１Ｋ　39/395
Ａ６１Ｋ　35/17　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成29年2月9日(2017.2.9)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
患者におけるアジュバント免疫応答を提供するための二酸化ケイ素のナノ粒子であって、５～５０ｎｍの直径を有する、前記ナノ粒子。
【請求項２】
単分散である、請求項１に記載のナノ粒子。
【請求項３】

非経口的に投与される、請求項１または２に記載のナノ粒子。
【請求項４】
付加的なアジュバントを含まない、請求項１～３のいずれか一項に記載のナノ粒子。
【請求項５】
それを必要とする患者中における免疫系を付加的に活性化させるための、請求項１～４のいずれか一項に記載のナノ粒子。
【請求項６】
患者が、感染性疾患、敗血症性ショック、腫瘍、癌、自己免疫疾患、アレルギー性または慢性または急性の炎症プロセスを患っている、請求項１～５のいずれか一項に記載のナノ粒子。
【請求項７】
２０～３０ｎｍのサイズを有する、請求項１～６のいずれか一項に記載のナノ粒子。
【請求項８】
それを必要とする患者中における免疫系の補体系を活性化させるための、請求項５に記載のナノ粒子。
【請求項９】
抗原提示細胞において受動的にターゲティングされる、請求項１～８のいずれか一項に記載のナノ粒子。
【請求項１０】
抗原を付加的に含み、これにより抗原提示細胞において抗原をターゲティングする、請求項１～９のいずれか一項に記載のナノ粒子。
【請求項１１】
抗原が、リンパ節中の樹状細胞においてターゲティングされる、請求項１０に記載のナノ粒子。
【請求項１２】
抗原がナノ粒子上の表面官能基へ接着された、請求項１０または１１に記載のナノ粒子。
【請求項１３】
抗原が癌抗原である、請求項１０～１２のいずれか一項に記載のナノ粒子。
【請求項１４】
抗原がスルビビンである、請求項１０～１３のいずれか一項に記載のナノ粒子。
【請求項１５】
抗原が、ナノ粒子上の表面官能基としてのリンカーに共有結合している、請求項１２～１４のいずれか一項に記載のナノ粒子。
【請求項１６】
抗原および表面官能基は、主組織適合複合体（ＭＨＣ）分子ではない、請求項１２または１５に記載のナノ粒子。
【請求項１７】
哺乳動物においてＴ細胞応答、抗体応答および／または樹状細胞成熟を誘導するためのディスパージョンであって、
ここで、５～５０ｎｍの直径を有するナノ粒子および溶媒のモノディスパージョンの有効量が哺乳動物に非経口的に投与され、
該ナノ粒子は、ａ）二酸化ケイ素マトリックス、およびｂ）ターゲティングされる抗原が接着した表面官能基を含み、但し、該表面官能基および該抗原は、主組織適合複合体（ＭＨＣ）分子ではなく、かつ
Ｔ細胞および／または樹状細胞の増殖および／または中和抗体の形成が誘導される、
前記ディスパージョン。
【請求項１８】
哺乳動物を付加的に受動免疫化するための請求項１７に記載のディスパージョンであって、ここで、増殖されたＴ細胞および／または形成された抗体が単離され、哺乳動物に投

与される、前記ディスパージョン。